

道岳連だより

広報 NO.76
平成28年1月10日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

2016年 新年あけまして おめでとうございます

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



北海道山岳連盟会員の皆さん、新しい年、いかがお迎えですか。

去年は、おかげさまで大過なく当連盟の諸事業、行事を進めることができました。

去年のネパールに発生した地震災害と、それに伴って発生した山岳地域の雪崩事故には大きな衝撃を受けました。日本からかの地へ行ったことのある山岳関係者には、とりわけショックが大きかったと思います。

一去年の御嶽山の噴火による事故の後、列島各地での火山活動にも注視、観測体制が強化されてきましたが、自然の中では人間は本当に小さな存在であることが、近年の異常気象温暖化、それに伴う災害で感じられます。もっと自然を理解し、畏敬の念を持って対しなければなりません。だからこそ「山の日」が制定されたのはよかったと思います。

又、2020年の東京オリンピックの種目に、クライミングがほぼ内定し、国体で連続入賞の記録を続ける北海道の関係者はもとより、全国の関係者にも大きな喜びとなりました。

さて、山岳会や加盟の登山者は高齢化、少子化で減少傾向ですが、800万とも900万ともいわれるそのほとんどが組織外登山者です。この登山愛好者について理由はともあれ、安全登山について、意識と行動をもって示すことが、われわれ山岳団体とその会員の使命かと思えます。ここに北海道山岳遭難防止対策協議会と当連盟が「安全登山シンポジウム」を共催しているのは意味があります。2015年の講師、日本山岳協会八木原罔明氏、ニセコルールの新谷暁生氏、道警西村和隆氏はいずれの方も経験豊富、その体験、実績、分析などきわめてリアリティな内容で、参加者は熱心に聴き入っていたのが印象的でした。

第29回の全道交流登山会・士別大会は6月13、14日、朝日山岳会の主管で開催、天塩岳を会場に士別市のバックアップでジギスカンにはサフォーク種に舌つつみ、全道各地から集まった参加者は交流、親交を深めました。しかし、あいにくの天候で、登山できたパーティーが少なかったのは残念でした。今年は来年、2017年、第56回全日本登山体育大会が北海道開催となりましたので、準備を兼ねたりハーサル大会の形をとります。

アウトドアフェスティバル in ルスツ 2015 は、前年度の状況を踏まえ500人超えと予想したのですが、全国的なマラソン、トレランブームの中、厳しい結果となりました。今年度は正確な情報分析をもとに企画、方策を立て、実施すべく準備を早めています。

これから3月まで、道岳連の行事・事業がまだあります。冬季の遭難、雪崩事故などに十分注意の上、諸活動をお願いします。

終りになりますが、加盟各団体並びに会員各位の益々の発展と、北海道山岳連盟への一層のご支援、ご協力をお願いして年頭の挨拶とします。

「山の日」 制定記念プレ事業

ふるさとの山に登ろう

来年8月11日から「山の日」が制定されることになった。これに基づいて日本山岳協会から、そのプレ事業として全国9ブロックごとに何らかの事業を実施してほしいという要望があった。北海道はその1ブロックに充てられている。

北海道山岳連盟では「山の日」の趣旨を「登山の普及と安全登山の啓発」であると捉え、日山協からの要望に応え、次の2事業を計画した。

- I. 北海道山岳連盟加盟90山岳団体に「ふるさとの山に登ろう」と題して、未組織の一般登山愛好者をできるだけ誘って10月4日(日)を期して各々の「ふるさとの山」に一斉に登ることを呼びかける。
- II. 山岳遭難防止を目指す啓発活動として、従来から行っていた「安全登山シンポジウム」をこれに充てる。

「ふるさとの山に登ろう」

ア) 7月10日加盟山岳会への呼びかけの内容

- ・「山の日」の趣旨を尊重し、できるだけ地域の一般登山愛好者にも呼びかける。ただし、山岳団体の事情で会員だけの登山でもいい。
- ・実施日10月4日…呼びかけが7月末と遅かったうえ、一般登山愛好者を勧誘するには雪の季節の前が適当と判断して設定した。
- ・山の選定は各山岳団体が自由に設定する。できるだけ「ふるさとの山」と思える山がふさわしい。

イ) 実施の結果

- ・その趣旨に賛同して28の加盟山岳団体がこの事業に参加した。残念ながら10月4日、北海道の一部は台風崩れの爆弾低気圧に見舞われ、4団体が中止を余儀なくされた。

【実施形態】

- ・10月4日に実施した団体 17団体(うち一般募集をした団体10団体)
- ・他の日に実施した団体 7団体(うち一般募集をした団体5団体)

【参加者数】 688名(うち一般参加者355名)

ウ) 報告

- ・参加団体に小文と写真を提出してもらい45頁の小冊子を編集し、道岳連加盟全山岳団体、全国都道府県山岳連盟(協会)に配布
実施した山の位置がわかるように、それぞれの地形図を文ごと掲載
- ・印刷代・郵送代は日山協からの助成金20万円のうち15万円を充てた。
残りの5万円は「安全登山シンポジウム」の補助金とした。



平成27年度安全登山シンポジウム開催

平成27年12月1日・札幌エルプラザ

平成27年度の北海道山岳遭難防止対策協議会(道遭対協)および北海道山岳連盟(道岳連)共催の「安全登山シンポジウム」は、去る12月1日札幌エルプラザで開催された。

今年、北海道警察本部山岳救助隊救助対策官の西村和隆氏と、日本山岳協会会長の八木原罔明氏、ニセコ雪崩事故防止協議会雪崩調査所長の新谷暁生氏の三氏を講師に招き、約 320 名の山岳愛好者を集めて実施された。

西村氏は、北海道内の山岳遭難救助の中心人物として、増加傾向にある道内山岳遭難事故の具体的な事例をあげて講演した。日山協会長の八木原罔明氏は、日本のヒマラヤ遠征の最盛期にエベレスト、アンナプルナの困難なルートの初登攀を果たし、世界屈指のヒマラヤ登山家として知られている。その豊かな経験から、山岳遭難について言及した講演を行った。

講演の最後は、北海道だけでなく日本でもユニークな「ニセコルール」の創始者である新谷氏が、その趣旨と雪崩情報の活用を説いた内容で講演を締めくくり、21 時 30 分閉会した。



八木原日山協会長



満席の会場

第 70 回国民体育大会(和歌山国体)山岳競技

天皇杯5位…8年連続10回目の入賞

第 70 回国民体育大会の山岳競技は、平成 27 年 10 月 3 日から 5 日の 3 日間和歌山県みなべ町で、リード…県立南部高等学校、ボルダリング…みなべ町立南部小学校体育館技特設会場で開催された。

競技結果

成年男子	リード	4 位 (入賞)	ボルダリング	11 位
成年女子	リード	8 位 (入賞)	ボルダリング	4 位 (入賞)
少年男子	リード	5 位 (入賞)	ボルダリング	4 位 (入賞)
少年女子	リード	18 位	ボルダリング	17 位
男女総合成績 (天皇杯) 5 位 (8 年連続 10 回目の入賞)			女子総合成績 (皇后杯) 11 位	

大会を振り返って

今国体は出発前から波乱含みであった。ひとつは、少年女子における出発 3 日前の選手交代。9 月のシルバーウィークを利用した道外合宿で少年女子のエース小武芽生選手が肩を痛め、精密検査の結果、骨にひびが入っていたことが判明し、急遽、補欠選手であった佐藤いぶき選手に出してもらうことになった。また、本州で甚大な被害をもたらした爆弾低気圧が、出発前日から北海道に近づいていて、テレビのアナウンサーは繰り返し外出を控えるように警戒を呼びかけ、当日出発できるかどうか分からない状況だった。幸い周囲の協力もあって、佐藤選手のユニフォームその他必要な準備は何とか間に合い、出発の朝は大荒れになると騒がれていた天候も千歳空港周



山岳競技北海道選手団

辺は奇跡的に風穏やかで、一同無事、機上の人となった。

今回の北海道チームは、監督は昨年と変わらず、選手も初出場は少年男子の岸本武蔵選手と急遽補欠で出ることになった佐藤選手の2名だけである。今年のチームで特筆すべきは、昨年度長崎国体少年男子で活躍した松浦凌選手が強豪そろいの北海道予選を勝ち抜き、初めて成年選手として出場することである。ベテラン杉本怜選手と組んで、最も厳しいとされる成年男子の全国レベルでどこまで上に行けるかが注目される。

また、その松浦選手と組んで少年男子で入賞した武者知希選手も昨年よりさらに力を伸ばしており、新しいパートナー岸本武蔵選手も中学時代から各種全国大会を経験しており、おおいに期待できる。成年女子は2年連続全国優勝を果たしたこともある一安瑛子・萩原亜咲、両選手のコンビである。直前の選手交代で佐藤いぶき・北谷未紗両選手の少年女子は厳しい戦いになるだろうが、総体的には昨年とほぼ互角の力を持つ北海道チームである。

初日は少年男子のリード予選・決勝、少年女子はリード予選、成年男女はボルダリング予選である。この日のMVPを選ぶとすれば少年男子の武者知希選手になるだろうか。リード予選・決勝とも迷いのないムーヴで完登し、個人総合第1位。総合表彰式で公表された各ルートのグレードは、予選が5.13a、決勝は5.13cとのことである。岸本武蔵選手もよく対応し予選はチーム8位。決勝は5位まで順位を上げた。3つも順位を上げたということで、大いによろこんでもよいところだが、決勝で最後の手順を間違えた岸本選手は悔しがる。あとわずか1手で3位のチームと並ぶ成績だったので、この気持ちはよくわかる。それにしても二人とも期待以上の強さを見せてくれた。



少年女子は、やはり急な選手交代だったため、厳しいものがあったと思う。それでも補欠で入った佐藤いぶき選手も北谷未紗選手と同じ高度まで登ったのは立派である。ここは同じ高度で11人が落ちているという核心部分で、次のホールドへ手が伸ばせるかどうかで差がついた。成年男子ボルダリング予選は惜しくも決勝進出を逃し11位。成年選手としては初出場の松浦選手は、プレッシャーも大きかったのだろう。今一つ実力を出し切れなかったようだ。成年女子のボルダリングは、期待通り萩原亜咲選手は3/4級～1級とされる全課題を一撃で登り個人成績第1位。一安瑛子選手も2課題を一撃し、チーム第3位で予選を通過する。

2日目は、成年男子のリード予選、成年女子のリード予選とボルダリング決勝、少年は男女ともボルダリング予選である。成年男子のリード予選では実力者、杉本怜選手は危なげなく完登。隣を登る松浦選手も昨日のボルダリングで肩の力が抜けたのか、丁寧な登りで完登し会場を沸かせた。公表されたグレードは5.13bである。第1位で予選通過。昨年は惜しくも決勝進出ならなかった成年女子リードも第6位で予選を通過。最終日への期待がかかる。成年女子ボルダリング決勝は萩原選手が4課題を一撃するも予選より一つ順位を落とし第4位に終わる。少年男子のボルダリング予選では、また武者選手が強さを発揮し、全課題を完登。岸本選手も一つ完登しチーム第4位で決勝進出を決めた。少年女子ボルダリング予選は決勝へは行けなかったが、前日のリード競技より一つ順位を上げて第17位となった。急遽補欠で出場することになった佐藤選手も北海道チームの一員として充分その力を発揮してくれた。佐藤選手はまだ中学3年生、北谷さんもまだ高校1年生、来年

以降の活躍にも期待したい。

最終日は少年男子のボルダリング決勝、成年女子、成年男子のリード決勝である。まず少年男子のボルダリング決勝であるが、武者選手が2課題を完登し岸本選手も1課題目でボーナス2までを保持し、予選と同じく第4位となった。なお、武者選手の3課題目については、他県の監督からゴールを保持しきれていないのではないかと質問票が出たようだ。たしかに静止した時間は短かったとはいえ、間違いなく両手で保持し体制を安定させていたので、これはもちろん却下。一方、他県チームに関してであるが、仮成績では保持が認められていなかった選手が抗議により保持が認められ、チーム順位が入れ替わったケースも見られた。このように、仮成績の発表から表彰式までの間に当事者である選手・監督が知らないところで、他県からの質問・抗議により順位が変わってしまうことがあるので、監督は特にジャッジに関しては注意しなければならないと思った。保持か保持でないかというあたりは微妙な場合もあるので、具体的な事例を基に研修を重ねる必要があるだろう。次に成年男子の決勝が行われた。予選で二人とも完登しているのは4チームあり、7番目のスタートとなった。さすがに杉本選手は決勝でも強さを見せ、最上部に近い37+まで達してフォール。松浦選手も28まで登ってチーム順位は第4位となった。成年男子リード4位は昨年と同じ順位ではあるが、松浦選手は成年種別での初出場である。立派な健闘であったと称えたい。北海道チームとしての最後の競技は、成年女子のリード決勝である。二人ともどちらかといえばリードよりボルダリングが得意な選手であるが、さすがベテラン選手だけありリードでも落ち着いて着実に高度を稼いでいた。しかし、3分に2ほど登ったところで二人ともフォールしてしまい(一安21+、萩原24)、第8位に終わった。それでも昨年は惜しいところで決勝進出を逃しているため、8位入賞は喜ぶべき結果である。

男女総合成績(天皇杯順位)では、昨年と同じ第5位に入賞した。これで8年連続10回目の入賞となる。今回は直前の選手交代など不利な条件もあったが、選手たちはチームとしてよくまとまり、素晴らしい結果を残してくれた。なお、この好成績の陰には、北海道体育協会医・科学サポート事業により派遣されたトレーナー、本堂雄大さん(理学療法士)の強力なサポートがあった。この場を借りて感謝申し上げたい。

(文責 少年男子監督 山納 秀俊)

北海道トレイルランニング大会2015

北海道アウトドアフェスティバル in ルスツは、同実行委員会が主催、北海道山岳連盟・北海道オリエンテーリング協会が共催し、20日ロゲイニング、21日トレイルランニングをルスツリゾート周辺で開催した。トレイルランニングは、今回大会から採用した超上級者向けの50Milには51名がエントリーしたが、総エントリー数は昨年を下回る352名に止まった。

競技開始後の午前9時頃にコース途上に“熊”が出没、午後1時前後に一時荒天(雷雨・強風・降雹・気温の低下)に見舞われ、コース内の小川の渡渉点が増水するなど、ランナーが低体温症に陥る危険が予測されることから参加者の安全の確保を優先し、午後1時30分に競技を中止した。

ネパール大地震義援金 … 道岳連の救援募金は20団体から156,000円が集まり、10月13日に日山協へ送金した。「登山月報」によると日山協分は186件 5,540,600円、主要山岳6団体の一次集約総額は25,591,294円になった。募金は、特に被害の大きかった「ランタン谷」と「ロールワリン地方」に重点的に配分され、現地で活動する日本のNGO団体への支援やロールワリンの二つの小学校の再建費用全額を支援、既に建設が始まっているという。(詳細 登山月報 No.561)

第54回全日本登山体育大会宮城大会 10/9-11 栗駒山

54回目を迎えた全日大会は、“とどげよう 登山の力を東北へ！”のスローガンのもと、10月9日～11日まで宮城県栗駒山(1626m)で開催され、道岳連からは小野会長ら14名が参加した。

紅葉時期の宿舎確保の関係から、応募定員200名のところ実参加者は208名となり、表掛コースほか全6コースが設定された。開会式は栗原市の「みちのく伝創館」、交歓会と閉会式は大崎市鳴子温泉「鳴子ホテル」で行われた。

北海道からの参加者は、現地入りする際に台風崩れの強風により、飛行機やフェリーが欠航するなどして、乗り物の変更を余儀なくされたグループもあったが、登山当日は好天に恵まれ、秋の栗駒山を楽しんだ。次年度は島根県で開催が予定されている。



開会式が行われた伝創館



栗駒山山頂

第2回理事会 10/18 札幌市教育文化会館

平成27年度北海道山岳連盟第2回理事会は、札幌市教育文化会館で68名(委任状24)の理事が出席して開催された。議件として1号議案 平成27年度前期を振り返って 2号議案 平成27年度前期事業報告について 3号議案 平成27年度後期事業予定について 4号議案 備品報告書 5号議案 各種議題 6号議案 その他 が提案された。

小野会長は挨拶で、山岳遭難は道内では大きな事故は発生していないが、「山の日」を通じてさらに安全登山を啓発、国体山岳競技は天皇杯5位と今年も優秀な成績、トレランはアクシデントで競技が途中で中止、個人会員制度による加入者19名だが未組織愛好者の組織化をさらに促進、平成29年度全日大会は北海道で開催などについて触れた。

神山理事長は、平成27年度の前期を振り返り、11項目の取り組むべき課題の成否を検証する中で、委員会事業の参加者増加、個人会員の増加、指導員の活用などはすこしずつ進んでいるが、トレラン参加者減もあって道岳連収入はギリ貧状態にある



こと、来年の「山の日」の事業をどうするか、来期役員改選の会長候補推薦は選考委員会で行いたいとの説明があり、各団体の道岳連運営に対する一層の協力を要請した。

議案審議では、1号議案、2号議案、3号議案、4号議案は各専門委員会委員長からそれぞれ報告、提案があり、質疑応答を経て承認。5号議案では、「山の日」プレ事業の報告、ネパール義援金の集約と日山協への送金、道内山岳団体交流会、安全登山シンポジウム、日高研修所納会、トレランの反省と来年への展望についての報告と提案があった。第6号議案では、クーラカンリ著「夏山登山教程」の発刊と購読の依頼があり、14時30分に閉会した。

日高登山研修所納会 11/7-8 日高登山研修所

日高研修所納め会は、加盟団体会員53人が参加した。例年通り受付後に内外の大掃除、冬囲いを行い、各会場に分かれて専門委員会の会議を実施、千栄会館が地元の行事で使用できず、談話室でその後の催しを行った。今回は、斜里山岳会に所属し知床山考舎を主宰する滝澤大徳さんが「知床のトイレ事情」と題し、世界自然遺産知床の自然環境の現状やトイレブース設置までの経緯と維持管理、携帯トイレ普及活動について約1時間講義した。

その後、下半期の事業説明を経て夕食・懇親会に移り、ビンゴゲームや不用品オークションなど和気あいあいのうちに交流を深めた。今回の食事は帯広山岳会3名が担当した。

二日目、近郊の銀嶺山登山は雪のため中止し他の研修に合流。屋内体育会での「制動確保技術研修」と応急手当グループに分かれてそれぞれ実技研修を行った。



国体クライミング賞状披露



滝澤講師の自然保護講話



各グループに分かれて実技研修



夏山講習会 Part3 8/29-30 羊蹄山・京極山荘

夏山講習会 Part3は、「羊蹄山お月見山行」として参加者30名(うちスタッフ7名)で実施した。
スタッフ L 玉木とし子(普及委員) L 松下陽子(ロビニア山岳会) SL 東海林春樹(札幌山の会)
SL 秋元篤男(普及担当) 神山 健(アドバイザー) 留守本部 豊島恵子(札幌山の会)
真嶋ドライバー

第1日 12時30分、参加者全員が京極山荘に集合する。座学内容は①羊蹄山1892.7mの成り立ち、登山史(神山、秋元) ②山荘からの標高差約1500mを如何に疲れないで登るか・登山の疲労回復とは(松下)。8割の受講者は羊蹄山初見参で、これほど標高差のある登山も初めて。不安と好奇心

相半ばといったところで、質疑も盛ん。和気あいあいのうちに座学も進み、人生経験も交えた参加者の自己紹介も。続いて夕食(懇親会)に京極の町へ下る。鶴岡肉店のバックヤードに設営される焼肉コーナー。数種類の肉と採れたての地元野菜が大好評、多少のアルコールも加わり、去り難い雰囲気。再びバスで山荘へ戻る。山荘からは羊蹄山の全容が望めた。

第2日 2時起床、留守本部のつくってくれた味噌汁を飲んで、3時にA班(京極コース→喜茂別コース)B班(喜茂別コース→京極コース)が出発する。これから登る羊蹄山南の空に、見事に満月が輝いていた。両班ともお月見、朝焼け、展望を楽しみながら5時間強かけて山頂に到達した。5時間は水分をとってゆっくり登る。ほぼ標準の登山時間だ。

山頂は日差しがあり、見下ろす山麓はいつの間にか雲海に覆われていた。下りは足に疲れが出たせいで、ほぼ全員が滑りすぎる登山道に苦勞する。しかし、昨日学んだ(疲れにくい、滑らない歩き方…腰をかがめて、がに股歩きで小刻みに)を真剣に取り組む様子が見取れる。講習会の成果といえるだろう。全員山頂を踏み、怪我もなく山荘に集結でき、京極町の朝もぎ茹でとうきびを頬張り、夏の最後の講習会は閉講した。14時解散となった。

(普及担当 秋元篤男)



羊蹄山の満月



羊蹄山頂上



札幌山の会 京極山荘

夏山講習会Part3を受講して

8月29-30日、羊蹄山お月見山行に参加させていただきました。羊蹄山は今回が初めてで、高低差1500mを登って降りるには不安が募る山行でした。登山開始3時、真っ暗な闇の中に羊蹄山山頂左側にきれいな満月が見える。京極コースから登山を開始。1合目、2合目と各合目で小休止、大休止をとり、昨日、松下さんから教わった「登山の疲労と回復…疲れにくい歩き方」を思い出し、エネルギー・水分補給・ストレッチをこまめに行う。

途中からヘッドランプの光が段々弱くなる。5時3分、東に太陽が顔を出しホッとす。また好天に恵まれた山行に感謝。8時10分稜線に無事到着。心配していた足の痛みもなく、稜線からの360度展望の素晴らしさに感動。山頂で美味しいおにぎりをいただき、喜茂別コースに下山。京極コー



スより急勾配に感じられ滑りやすい箇所が随所であり、足元注意の連続。途中からだんだん膝が痛くなり、こんなに痛く感ずる経験を始めて味わう。

29日の夕食には京極町で美味しい焼肉と美酒を味わい、更には夏山講習会を通じて多くの皆様とお知り合いになれたことに大いに感謝しております。豊島さん美味しいとうきびありがとうございます。道岳連普及事業スタッフの皆さん、講習会に参加された皆さんお疲れ様でした。是非、次の機会も参加させていただきたいと思います。企画を楽しみにしております。
(A班 個人会員 T・Nさん)

羊蹄山お月見山行を担当して

サポートの依頼を受けて夏山講習会・羊蹄山の山行に参加する。「登山の疲労回復、疲れのない歩き方」と題した講義を担当した。参加者は私より経験の豊富な方ばかり。しかし、皆さん体力、登山行動等に不安を持っているのか、熱心に耳を傾けてくれる。私にとっては、講義内容がどれだけ役に立つか不安…さらに、講義のあとは次々と質問が出た。答えが答えになっていたのかな。

翌日は喜茂別コースを登り、京極コースを下るB班。暗闇の中、予定とは違う林道を歩き、(間違いではなかったが)登山道に入っての急登でもペースづくりがなかなか出来ない。つい早く歩いてしまう。それでも下山後、歩き方を参考にしてよかった等の言葉を頂きうれしく思った。沢山の方と同じ時間を過ごし、楽しい思い出ができました。
(B班L 松下 陽子)

高所登山講習会 8/20-23 富士山

日本一の富士山頂に泊り、自ら高山病を体験しよう、という講習会が本年も8月20日から23日まで行われました。本年はせっかくだから1合目から登ろうという声に押され、いつもは5合目からですが、1合目からの登山です。

高山病対策としてはゆっくり登ることが一番ですが、低い所からゆっくり上がるのもかなり効果があるでしょう。バスなどで5合目からの登山の場合、一気に高度を上げるのでこの高度につく頃には高山病の症状を訴える人もいます。今回は講師1名、参加者11名(室蘭、富良野、小樽、札幌などから)で、そのうち発足したばかりの個人会員の方も2名いました。

20日は移動日。新千歳空港から羽田空港で空路移動し、レンタカーで静岡へ。数ある富士山古道の一つ、我々の登る須山古道の登山口である須山浅間神社を参拝。ここも世界遺産富士山の構成資産の一つで、立派な案内碑があります。車で1合目まで登ったのち宿入りです。ここで今回車の都合で現地集合してもらった富良野の2名と合流です。

21日は富士宮1合目の水ヶ塚公園から歩き始めです。ここはマイカー規制中のシャトルバス乗場で、ほとんどの人がバスに乗り換え一気に5合目まで上がりますが、我々はゆっくりと歩きで行きます。雰囲気のある樹林帯でコース整備も行われ歩きやすくなっています。途中御殿庭や宝永山の3つの火山などの見どころもあります。晴れていますが、山頂や下界はすっきりと見えません。そんな中、富士宮口の標高約2500m、6合目の宿舎です。血中酸素飽和濃度は問題なしです。



須山口登山歩道で

22日はこのままゆっくりと樹林限界を超えた富士宮口をゆっくりと頂上へ進みます。天気は良く雲海の上をいきます。6時間弱でお鉢に到着し、剣ヶ峰や最高地点で記念撮影。お鉢回り、郵便局と何でもできます。宿泊所は16時にならないと入れないので、気持ちがいい山頂で過ごしたのち宿入りです。若干の頭痛などの人もいますが、みんな食欲もあり一夜を過ごします。

23日朝は、さすが富士山山頂は寒いと感ずる気温ですが、雲海がありますが見事なご来光を拝むことができました。軽度な高山病の人がいるくらいで一安心です。満足な天気の中、御殿場口から富士宮口を経由するプリンスコースを下山。5合目からは文明の利器、バスで下山し、1合目で2名と別れ、入浴後、羽田空港、新千歳空港と進み解散です。

富士山の新たな魅力や意外性の発見ができ、自身の高所対応力を感じたり、と皆さんそれなりの成果を得た富士登山だったかと思えます。天候に恵まれたのも好印象の一つでしょう。来年も1合目からやれればと思います。



富士山剣ヶ峰

(海外登山委員会委員長 工藤 寛)

一合目から登り、山頂に泊ろう

蘭友登高会 打波 夏絵

魅力的なこの言葉に惹かれて《高所登山講習会》8/22(木)～8/23(日)に参加しました。

20日 移動日、翌日からの安全登山を祈願して須山神社に参拝してから宿に入り、夕食後に高度障害についてのレクチャーが行われました。

21日 1450mの水ヶ塚公園からの出発です。広葉樹が茂り苔むした瑞々しい森を歩いて行きます。ヒンヤリと心地よい須山口登山歩道です。3合目あたりになると木立は低くなり、見通しが良くなります。ここから宝永山の第三火口の淵を回り今日の宿泊所、6合目の雲海荘へ向かいます。ここまでの道々、イタドリ、キオン、ヤナギラン等が目を楽しませてくれました。特に目を引いたのは、放射状に葉を広げていたフジアザミ、フジと名がつくだけあって赤紫の大きな花は見事でした。幸いに今日は体調の変化もなく、早めに就寝して翌日の行程に備えました。



22日 山頂を目指します。元祖7合目(3010m)を過ぎた辺りから足が重くなり、8合目(3250m)を過ぎた頃には意識的に深呼吸をして《ゆっくり》と自分に言い聞かせながら歩きました。9合5勺に来ると《胸突八丁》と岩に印されていて勾配はさらにきつくなり、やっと山頂に到着した時には嬉しさで疲れが一気に吹き飛んだ感じでした。最高地点剣ヶ峰では全員で万歳三唱、青く澄みきった空に赤茶けた火山灰の稜線を眺め、自然が創り出した美しさを堪能しました。お鉢一周を終えた頃から頭痛がし始めたので、鎮痛剤を飲み防寒衣を着用、《今晚は山頂泊で只でさえ空気が薄いのに、混み合った大部屋だ》と思うと、嫌な予感が頭を過りました。

23日 昨夜の予感は見事の中で、食欲がなく朝食はパスしました。ですが、今日はもう下るだけなので、口に出来そうな行動食を少しとり、寒くないようしっかり着込んで日の出を待ちました。地平線が少しずつ明るくなりご来光が見えた時には、今自分がここにいることに心から感謝

第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会代表選手

第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 平成27年12月23～24日 埼玉県加須市

《男子》武者 知希(江別高3) 岸本 武蔵(美唄尚栄高3) 高木 智和(札幌工業高3)

鈴木 爽(富良野緑峰高3) 香川 裕登(富良野緑峰高2)

《女子》永野 亜弥(遠軽高2) 北谷 未紗(遠軽高1) 小武 芽生(北星学園女子高3)

※武者、岸本、小武選手は日山協推薦

《団体》男子 富良野緑峰高校 女子 遠軽高校

今後の諸行事

氷壁技術講習会 (指導委員会・海外登山委員会)

平成28年1月16日(土)～17日(日) 層雲峡温泉ペンション銀河・銀河の滝

冬山講習会 Part 1 (基礎編) (普及委員会)

平成28年1月16日(土)～17日(日) 仁木町山の家きょうどう・元服山、大黒山他

雪崩研修会 (札幌山岳連盟)

平成28年1月30日(土)～31日(日) 仁木町山の家きょうどう・冷水峠付近

冬山講習会 Part 2 (応用編) (普及委員会)

平成28年2月6日(土)～7日(日) 国立日高青少年自然の家・日勝峠周辺の山

山岳スキー技術研修会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会)

平成28年2月20日(土)～21日(日) 吹上温泉白銀荘・十勝連峰三段山周辺

山岳スキー技術養成講習・検定会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会)

平成28年2月27日(土)～28日(日) 道岳連日高ロッジ・日勝ピーク周辺

第3回理事会

平成28年3月13日(日) 札幌市民ホール

★実施要項確定分のみ掲載、詳細は道岳連HP又は加盟団体配布の要項を確認ください。

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.76 平成28年1月10日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄

